

平成 25 年度第 1 回恵那市市民評価委員会

議事録（要約版）

日時：平成 25 年 6 月 10 日（月）

午後 1 時 30 分から

場所：恵那市役所北会議棟大会議室

-
- 1 市長あいさつ
 - 2 委員長・副委員長互選
 - 3 委員長・副委員長あいさつ
 - 4 会議の公開・会議録の公表について（確認）
〔異議なし〕

5 議事

- (1) 恵那市市民評価委員会について
- (2) 恵那市の行政評価について
- (3) 評価事業の選定について

6 その他 次回開催予定日について

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦、大竹典子、奥村ひとみ、田口譲、柘植麻美、平野未帆、宮地政臣、
三輪哲司、山田基

【オブザーバー】竹内泰夫

【事務局】企画部長 小栗悟、企画課長 千藤秀明 企画課係長 服藤知晃、
企画課主査 橋本孝純

1 市長あいさつ

■市長 本委員会では、恵那市が行っている事業について外部の目で評価をしていただくということが目的となる。平成18年から内部の評価委員会も設置しているが、自分達の仲間で評価をするというのはなかなか難しいものがあった。市民の目線でメスを入れていただきたい。PDCAサイクルのC（チェック）の部分が欠けており、その部分の役割を担っていただくこととなる。一部の地域だけではなく恵那市全体という視点から評価いただき、意味のある委員会となることを期待している。

2 委員長・副委員長の互選

■事務局 委員長、副委員長各1名の選任についてご意見はあるか。

■委員 昨年同様、委員長に市川委員、副委員長に田口委員にお願いしたい。

（異議なしの声あり）

■事務局 委員長を市川美彦委員、副委員長を田口譲委員にお願いすることとする。

3 委員長、副委員長あいさつ

■委員長 6つの事業政策がある中で行政側から推薦されたものと委員側から推薦されたものを平均的に評価を行っていきたい。

会議は長く、しかも暑い時期となるがぜひ最後までご協力いただきたい。引き続き竹内アドバイザーには恵那市以外の目線からご意見をいただきたい。

■副委員長 私は市民が自分たちの地域が良くなることを望むと同時に他の地域も良くなることを考えることがいい恵那市にしていくことになると考えている。引き続きよろしくお願いたします。

4 会議の公開・会議録の公表について（確認）

〔異議なし〕

5 議事

(1) 恵那市市民評価委員会について

■委員長 議事(1)から順次進める。議事(1)について事務局から説明を求める。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員長 資料(1)について質問はあるか。

■委員 特になし。

(2) 恵那市の行政評価について

■委員長 続いて資料(2)について事務局から説明を求める

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 評価制度については、委員会の定義として施行段階から今日まで何点か変更が加わっている。委員から今回はこういう点も含めて評価をするべきといった意見はあるか。

■委員長 当委員会の役目は資料④の事業評価の視点で見ていくことにある。今後進捗状況に応じて質疑されることがあれば遠慮なく発言をお願いします。

(3) 評価事業の選定について

■委員長 続いて議事(3) 評価事業の選定について事務局から説明を求める。

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 質問はないか。

■委員 行政提案の中から選ぶ事業は5つではなく3つでよいのか？

■事務局 3つでよい。個人で3つを選んでいただき、全体の中から上位5つ選ぶ形をとる。

[事務局から資料の訂正について説明]

■委員 行政提案事業一覧の林業センターは上矢作にしかないものなのか？

■事務局 上矢作独自なものとして評価をしていただきたい。

■委員 教員住宅維持管理経費について、そこら中にあると思うが全体を評価するのか？

■事務局 市街地については代替が効くのではないかという視点で評価をしていただきたい。

■委員 行政提案事業選定表の事業について事務事業一覧のどの事業にあたるかを教えていただきたい。

[事務局から説明]

■委員長 行政提案事業については事務事業一覧の各ページで中身を見てそれを参考に選定をしていただきたい。委員からの評価事業の選定については事業一覧の中から3つ選び順位をつけていただく。次回の委員会までに提出されたものの集計を行ない、行政提案事業からは上位5つを、委員選定事業からは7つの合計12事業を評価の対象としていく。

■事務局 記入したものは郵送もしくはFAXにてご提出いただきたい。また、第2回の委員会の開催との兼ね合いもあるが、提出の期限を決めさせていただきたい。

■委員長 事務局側の意向は？

■事務局 第2回の開催は7月上旬を予定しているため、6/25(火)をめどに提出をしていただくとありがたい。

■委員長 それでは6/25(火)までに封書もしくはFAXにて企画課まで提出で皆様お願い

いたします。今までのところで質問はあるか。

■委員 評価を行う 12 事業について再度の説明をいただきたい。

■事務局 1 人につき 3 事業を出していただき、集計して 7 事業に絞りそれを市民評価委員選定事業とします。また行政提案については、行政提案事業表にそれぞれ 1~3 位をつけていただき、得点の高いもの 5 事業を選定させていただき、合計 12 事業といたします。

■委員長 配慮しなくてはならないのが 6 つの柱立ての中に 600 事業があるということ。選定される 12 事業が 1 つの柱に集中せず、6 つの柱からバランスよく選ばれるように事務局で調整を行っていただきたい。

■委員 評価委員の選定事業について、選定結果が分散し、うまく決まらないということがあり得るのではないか。

■委員長 今回の事業選定で 7 事業がすっきり決まればよいが、調整をしなくてはならないことが出てきた場合は結果を聞いた上で第 2 回の委員会においてどうするかを諮ることとしたい。

■委員 各委員 3 つずつ選んで順位をつける際そのウエイトはあるか。

■事務局 今回、ウエイトは設けていない。

■委員長 ウエイトがあれば各 1 位の 9 事業から 7 事業を選ぶという形になるが、ウエイトがついていないと 27 事業から 7 事業を選ぶこととなり、非常に手間がかかるのではないか。

■委員 前回は事業選定を行ったが、結果として 2 つの班にわけて 6 つの事業に絞るため最終的な調整を行ったはず。

■委員長 事業選定をいただいても前回のように調整を行うということが起きてくるかもしれない。

■委員 前はウエイトをつけていた。今回やめた理由は。絞込みに時間がかかることが予想される。

■委員 順位をつけるということはイコールウエイトをつけるということではないか。

■委員長 行政提案事業選定表で順位についての点数があるので市民評価委員の選定にあたって当然これにあわせて順位についてのウエイトがあるべき。

■委員 ウエイトをつけると 1 人が 1 位にしたものと 3 人が 3 位にしたものが同じ点となり、どちらを選ぶべきかという難しいことになる可能性がある。

■事務局 ウエイトとともに 6 つの柱ごとに選ぶということも踏まえなくてはならない。

■委員長 柱ごとに選ぶという割り切り方もあるが、今回評価をするためにやってみたいなど思った委員の皆さんの意見を加味しながら選ぶべきである。

■委員 今、行政提案事業を見ると、各部署でぜひ市民に評価をしてもらいたいというものもあるし、この際やめたいという視点から選んだものもあると思う。

■委員 もっと言うと、これなら評価は高いだろうということで提案したものもあるのではないか。

■委員 この中でいくつかはかなり低いランクの評価をしてもらうことで行政の判断の手助けになるという考えのものもあるのではないか。

■委員 行政提案については絞込み、市民評価委員の選定についてはそれ以外で市民として選ぶという観点でとらえてよいか。

■事務局 委員からの評価事業の選定については順位をつけることはしない。事業一覧の中から3つ選んでいただく。行政提案事業については3つを選定していただき順位をつけていただくこととする。

■委員 去年は600の事業から6つを選んだ。大きい課題ごとに1つずつという方法。そのやり方でもなかなか答えがあわない。今回の3つではもっとあわないのではないかと思う。選ぶ数を3つから増やして柱ごとに1つずつで6つとするのはどうか。だいたい絞り込むことができる。全体から3つというのは難しく、大変な時間がかかる。不可能に近い。

■委員 それか選定についてもっと委員の中で話し合ってから選ぶという方法もある。ただその場合次回までにその話し合いを行わなくてはならず、悩みどころである。

■事務局 6つの柱から1つを選ぶと選びやすいかもしれないが、最終的に54事業から7つに絞り込むことになる。それも大変ではないか。

■委員 初めての委員に経緯を説明すると、初年度はすべて行政が選んだものを評価したが、自分達で選びたいということになり2年目は半分ずつ選ぶということになった。委員会の主旨としては委員が選ぶというのが正しいと思う。多くなってもよいのではないか。12事業にすると選定作業にエネルギーを使う。だからといって数を増やすとヒアリングや現地調査が増え、限られた時間の中で行わなければならない。

12事業から2、3事業が増えても精力的に評価していただくということでまずはこの方式で選んでいただく。そして第2回で票数が多いものと6つの柱との兼ね合いで決めていく。数が増えることもあるかもしれないが、委員の納得の上で評価する事業の選定を行うこととしたい。

■委員 委員同士で1人は柱の1~3から、1人は4~6からという申し合わせがない中で各自が全体から3つ選ぶと、どこかの柱に偏ってしまうのではないかという懸念がどうしてもある。やはり各柱の中から1つずつの6つをそれぞれ選びその中から話し合っ事業を決めていくほうがよいのではないか。

■事務局 選ぶのは各柱から1つずつの6事業ということで変更してよろしいか？

■委員長 変更でよい。出てきたものを見て、最終的には話し合いの中で臨機応変に、民主的に決めていく。

■委員 事業一覧の中の数字で平成24年度がゼロというのは予算がついていないという

ことか。すべての年度がゼロの事業もある。

■事務局 斜線が入っているものについては終了した事業となるがそれ以外でゼロのものは未入力である。

■委員 平成24年がゼロのものは選ばないほうがよいのか。

■事務局 平成23年の実績までは間違いなく入力されているのでその数字で判断して選んでいただきたく思う。成果指標が未入力のものもあるが、フルコストの欄が平成23年実績まで入力があるものについては選定の対象としていただきたい。

■委員 平成23年の実績もゼロのものもあるがそれは対象外か。

■事務局 実績があると予想されるものでもゼロになっているものがあるので再度資料を精査し、数字を入れ、事業一覧を委員の選定資料として足りるものにするため、再度作成をさせていただきたい。

■委員長 数字を精査し、再度作成して事務局より送っていただく。それを待って事業の選定をしていただくということでもよろしく願いいたします。その他に質問はあるか。

■委員 行政提案事業について6つの柱の第3節から選ばれているのは、みんなのみち愛護事業のみである。他は2事業選ばれている。6つの柱を考えるとこれでよいのか。また、みんなのみち愛護事業は昨年選定したような記憶があるが。

■事務局 昨年とは別の事業になる。また、10番目は地域間交流推進事業と岩村地域の交流事業で1事業としており、これも1つの柱から1つの事業しか選ばれていない。

そのようなことはあるが、今回はこの10事業の中から5つを選んでいただくということをお願いしたい。

6 その他 次回開催予定日について

■委員長 次回の開催について事務局より考え方をお聞かせ願いたい。

■事務局 7月初旬を検討している。次回は文化センターの展示室での開催を考えており、空き状況より7/2(火)、4(木)、5(金)、10(水)、12(金)の中から決めていただけるとありがたい。

■委員長 会議は基本的に午後からとしたい。今の候補日でご都合はいかがでしょう。

[7/2(火) 1人の委員のみ不可]

■委員長 予定の悪い委員については評価対象事業提出の際に選出の方法等のご意見もいただくといい形であることとし、次回は7/2(火)で決定としたい。委員には改めて通知文書が送付される。

■委員長 全体を通して質問はあるか。

■委員 事業を選定するにあたって、いい事業なので予算を増やしていくべきというものを選択することと、必要ないので予算を減らしていくべきものを選択すると

いう2つの視点があると思うがどちらの視点に立てばよいか。

■委員長 事業仕分けのようなことは行わない。評価の結果として行政の判断の中で拡大、縮小する事業はあるかもしれないが、委員には直接市民の目線で率直に評価をしていただきたい。評価にあたってはその事業の担当課から説明を受け、現場のある場合はそちらに行き、今より良くするために手直しをする必要があるもの、そのための対策を提案するということになる。評価のしっぱなしではなく評価したものについては平成26年度の予算に反映することができるようにその時点で市長に提案をする。前年度の内容については今年度3月にどういう改善を加えたのかを関係する事業の担当課から聞く。評価をしたのであればその評価がどのように予算に反映できたのか、その事業がどういう方向に行くのか検証するという事まで含めたことが評価委員会の仕事である。評価の仕方についてはそれぞれの思いでやっていただければと思う。

■委員 現在こうやっているがもっとこうしたらよくなるのではないかというような評価でいいのか。

■委員長 いいと思います。他に質問はあるか。

■委員 昨年のように評価シートを作って実施していくということか。

■事務局 昨年同様の方式で評価を行っていただく。

■委員長 他には。

[事務局から資料「恵那CATV管理運営事業・放送運営事業（アミックス委託料の推移）」
についての説明]

■委員長 山岡の放送施設についてはどうするのか。

■事務局 引き続き使っていくが、いずれはやめていくという方向である。え～なビデオの事務所として使ったらどうかというご意見もあったが、少し市街地から離れていることから使用しないことになった。市としては将来的には閉鎖と考えている。

■委員長 アミックスは山岡の施設をしばらく使い、将来的にはどこかに移るのか。

■事務局 アミックスとしての本社機能をどこかに設けるという考えをお持ちのようであるのでそれまでの移行期間ということになると思う。

■委員長 音声告知器の保守業務委託は平成24年から指名競争入札にしたのか。

■事務局 4社による指名競争入札である。

■委員長 委託料が非常に細かい数字だが委託料でこのような細かい数字が出てくるのは一般常識として非常におかしい。委託料の設定はそのエリアで行うのか。

■事務局 その通りです。

■委員長 エリアで設定していてどうしてこのような細かい数字になるのか。根拠は。

■事務局 そこまでは把握していない。

■委員長 そのような状態では総括ができない。どういう根拠であるかは知っておくべき。

今後の委員会の中で説明をいただきたい。

[副委員長より今後の流れ、提出期限、次回スケジュールについての確認]

[閉 会]